事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース市場：**6039**）

2022年6月20日

目次

1．会社概要

2．事業概要

3．業績・財務概要

4．市場環境

5．成長戦略

6．リスク情報

1．会社概要

会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan **A**nimal **R**eferral **Me**dical **C**enter　：　**JARMeC**
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院　：　神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院　：　愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 東京病院　：　東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院　：　2023年3月に開業予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	254名（非常勤30名を含む）※グループ全体　（2022年3月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センターを運営） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等を貸与・貸与）

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

設立理念

JARMeCは動物医療業界において、

「臨床や教育の現場で活躍する**人材教育**」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う**臨床研究**」にチャレンジし、

「教育、研究の実践の場としての**高度医療**（二次診療）」を
地域の連携病院と協力して提供する

以上により広く社会に貢献することを理念としています。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

沿革

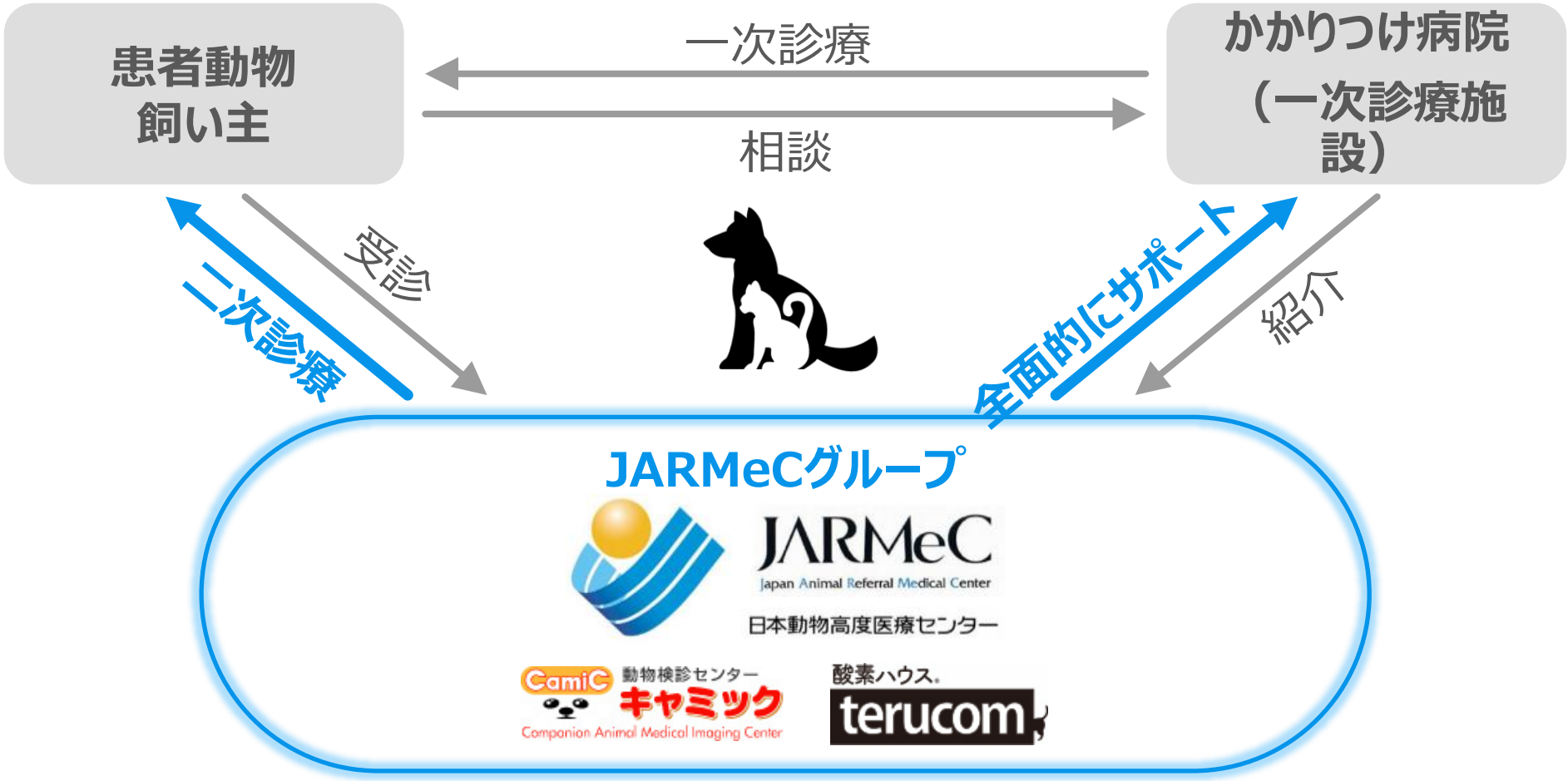
2005年9月	株式会社日本動物高度医療センターを設立
2007年6月	川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
2009年3月	「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
2011年12月	名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
2014年1月	株式会社キャミックを子会社化
2015年3月	東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
2017年6月	キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
2018年1月	東京病院を東京都足立区に開業
2022年2月	キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
2022年3月	テルコム株式会社を子会社化
2022年4月	東京証券取引所グロース市場に移行

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

2．事業概要

二次診療専門の動物病院：一次診療施設を全面的にサポート

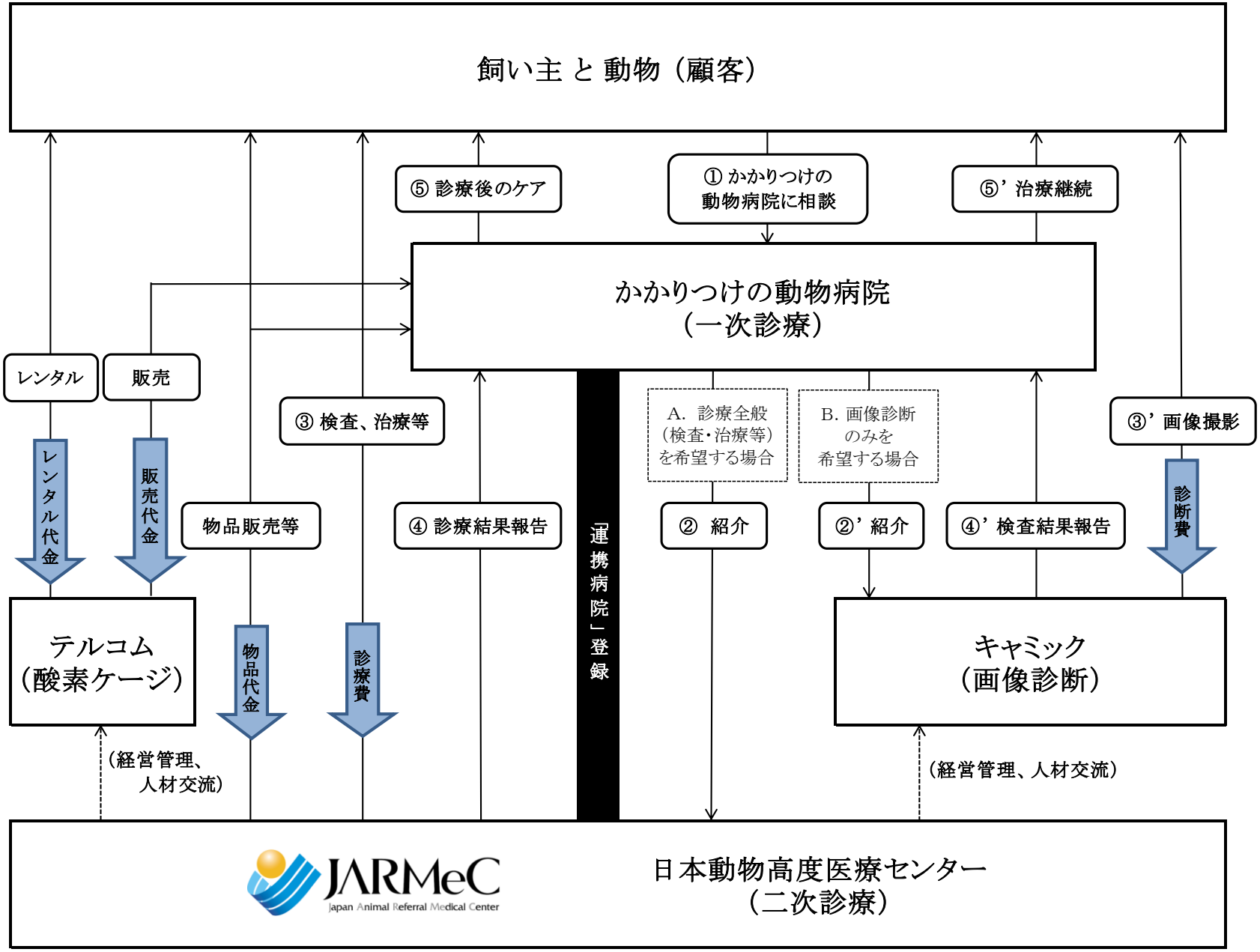
当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

事業系統図



Copyright© JARMeC All Right Reserved.

JARMeC 川崎本院

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

JARMeCグループの各拠点

JARMeC 東京　（東京都足立区）

JARMeC 名古屋　（名古屋市天白区）

CAMIC ひがし東京

CAMIC 城南

CAMIC 城北

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

診療体制

専門診療科による高度医療

- 循環器・呼吸器科
  Cardiology / Respiratory Medicine

- 泌尿器生殖器・消化器科
  Gastroenterology / Urology

- 腫瘍科
  Oncology

- 脳神経・整形科
  Neurology / Orthopedics

- 眼科
  Ophthalmology

- 麻酔科
  Anesthesiology

- 放射線・画像診断科
  Radiology & Imagings

・特定の診療分野に特化し実際の診療を行う。
・動物の生命もしくは生活の質に大きくかかわる分野を広くカバーする診療科を揃える。
・併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施。

例）心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患
　　腫瘍科+循環器/呼吸器科
　発作症例（てんかん発作と不整脈発作の鑑別）
　　脳神経科+循環器科

・診断の肝となる画像診断や検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、上記診療科をサポートする。

➡ 高度かつ総合的な獣医療を提供

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

主要な設備（１） CT撮影装置

断層画像や３D像を撮影できるCT装置を用いることで、一般の医療機器では
見つけることが難しい病気の診断や治療計画が可能となり、
高度な動物医療の実践が可能となる。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

主要な設備（２） MRI撮像装置

超伝導型の高磁場装置を用いることにより、体の小さな犬猫の脳や脊髄の病変を高解像度で撮像することができ、精度の高い診断につなげることができる。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

主要な設備（３） 各種手術室

第1
- 心臓血管外科
- 脳神経外科・整形外科

第2
- 腫瘍科

第3
- 眼科

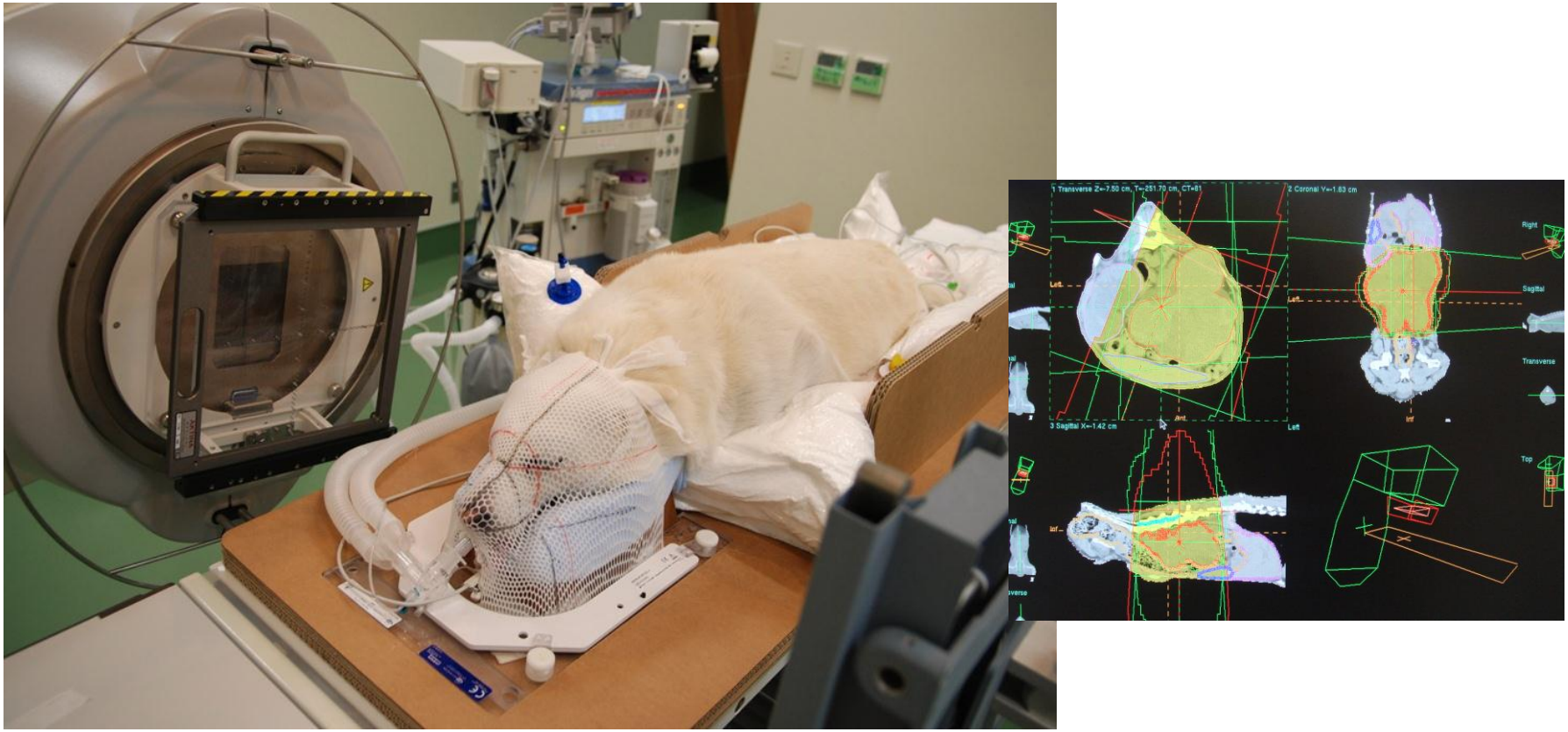
第5・第6
- 軟部外科一般

第7
- 歯科口腔外科・内視鏡

心臓手術や開胸手術、開頭手術や神経系手術、各種開腹手術や腫瘍摘出術、低侵襲手術（腹腔鏡手術・カテーテル治療）など、特殊な手術や難易度の高い手術を実施。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

主要な設備（４） 放射線療法装置



外科手術で切除が困難で、抗がん剤が効きにくい“がん”に対しても、放射線を照射しがん細胞を殺滅することができる。
体の小さな犬猫のがんに対しても、精密に放射線を照射できる装置を備える。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

地域の動物病院との連携

連携病院の証
Certificate of Veterinary Cooperation

貴病院と日本動物高度医療センターは、
相互の連携を図りながら疾患動物に対し
より質の高い動物医療の提供を目指しています。

日本動物高度医療センター

JARMeC
日本動物高度医療センター
農林水産大臣指定　小動物臨床研修診療施設

当社の理念に賛同いただいた動物病院様には**「連携病院の証」**を進呈し、

①JARMeCグループのウェブサイトに「連携動物病院情報」を掲載

②JARMeCから「学術情報・セミナー情報等」を配信

③ご紹介いただいた症例について、JARMeCにおける「診療・手術」の見学受入

等のサービスを実施。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

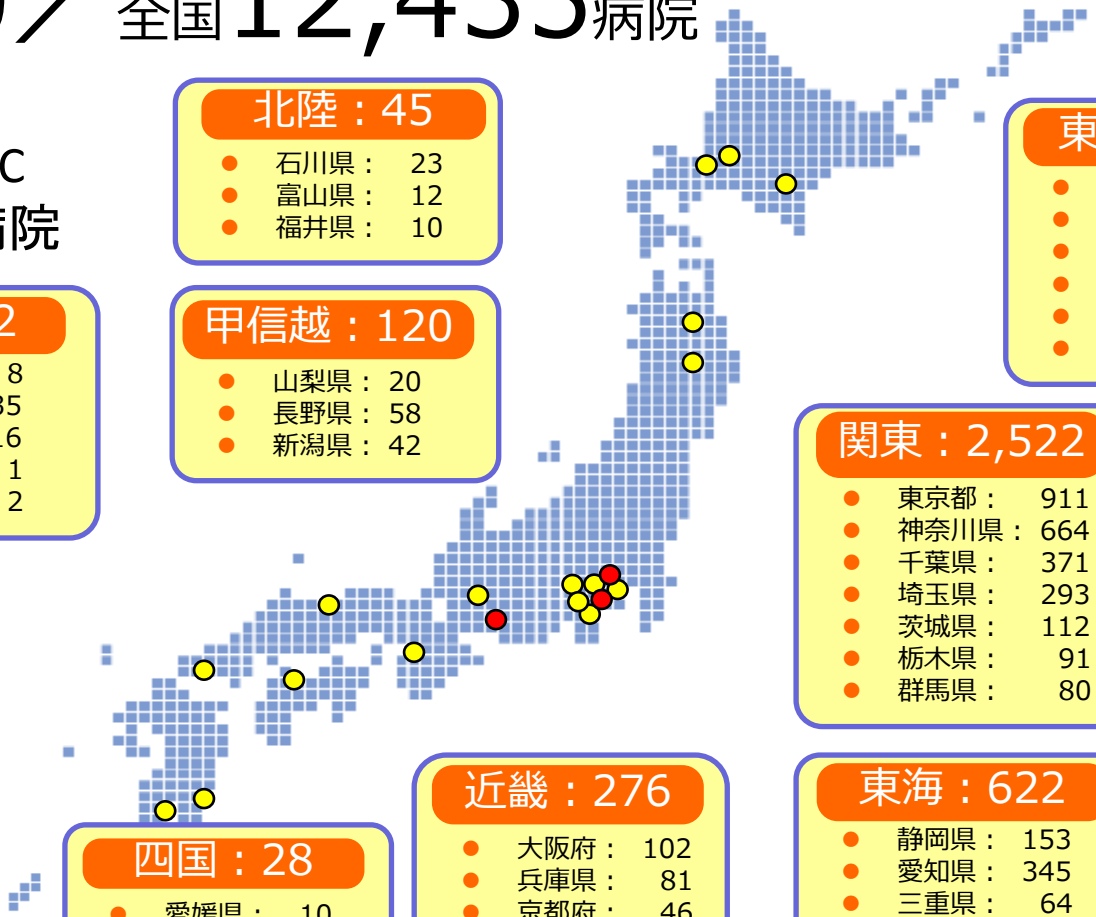
連携病院数

連携4,030／全国12,435病院

（2022年3月末時点）

JARMeC

大学病院



北海道：65
- 北海道： 65

東北：147
- 青森県： 12
- 岩手県： 18
- 宮城県： 34
- 秋田県： 8
- 山形県： 25
- 福島県： 50

北陸：45
- 石川県： 23
- 富山県： 12
- 福井県： 10

甲信越：120
- 山梨県： 20
- 長野県： 58
- 新潟県： 42

関東：2,522
- 東京都： 911
- 神奈川県： 664
- 千葉県： 371
- 埼玉県： 293
- 茨城県： 112
- 栃木県： 91
- 群馬県： 80

東海：622
- 静岡県： 153
- 愛知県： 345
- 三重県： 64
- 岐阜県： 60

近畿：276
- 大阪府： 102
- 兵庫県： 81
- 京都府： 46
- 奈良県： 12
- 滋賀県： 28
- 和歌山県： 7

中国：62
- 岡山県： 8
- 広島県： 35
- 山口県： 16
- 鳥取県： 1
- 島根県： 2

四国：28
- 愛媛県： 10
- 高知県： 8
- 香川県： 10
- 徳島県： 0

九州・沖縄：143
- 福岡県： 55
- 佐賀県： 7
- 長崎県： 18
- 熊本県： 14
- 大分県： 11
- 宮崎県： 10
- 鹿児島県：17
- 沖縄県： 11

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

3． 業績･財務概要

2022年3月期　決算概要

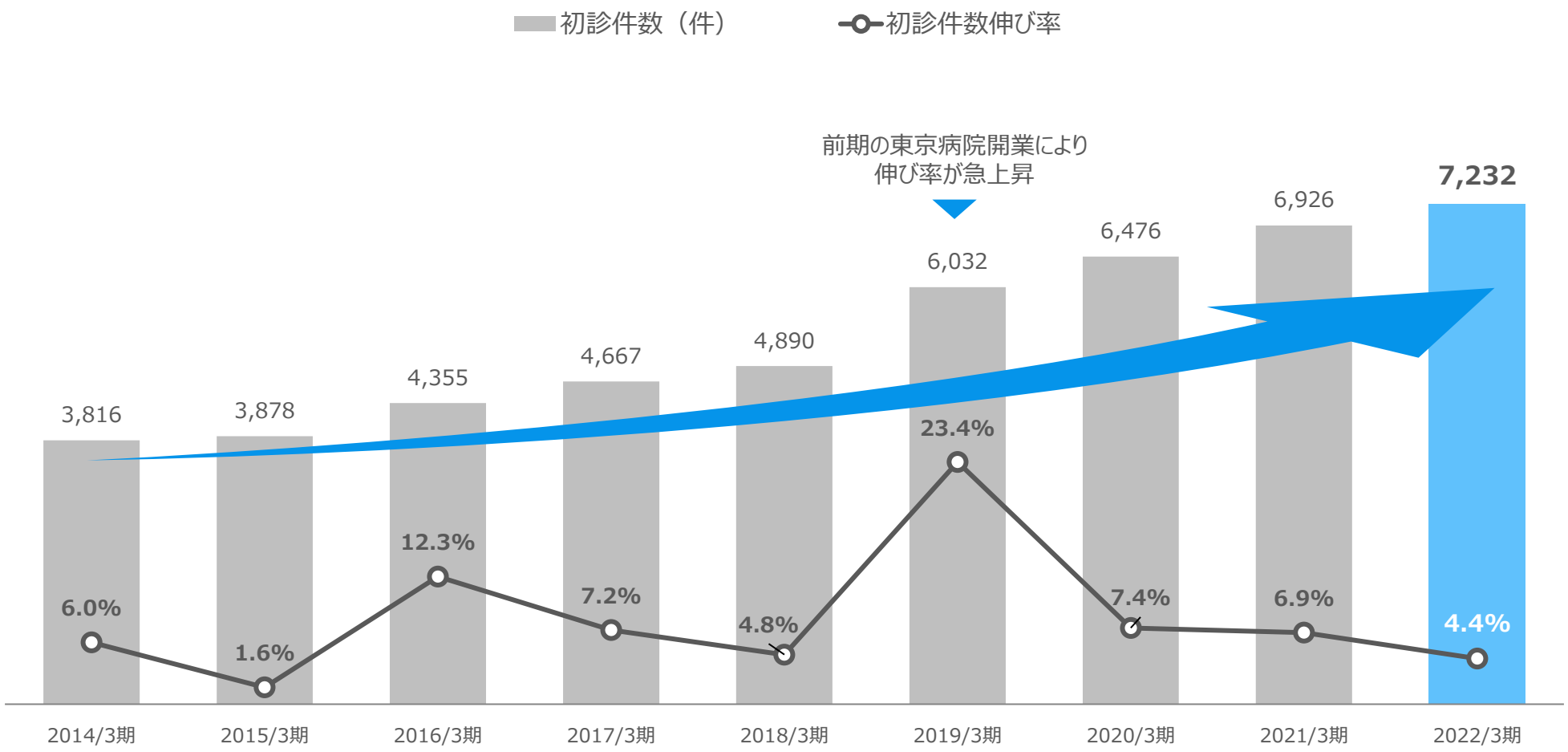
- 初診件数、総診療件数が増加し、前期比4.6%の増収。過去最高売上を更新
- 事業拡大に伴う費用の増加等も嵩んだが、営業利益は前期比8.3%増益し過去最高益を更新

（百万円）	2021/3期		2022/3期						
	実績	構成比	計画	**実績**	構成比	前期比		計画比	
売上高	2,847	100.0%	2,930	**2,979**	100.0%	+131	+4.6%	+49	+1.7%
営業利益	405	14.2%	410	**439**	14.7%	+33	+8.3%	+29	+7.1%
経常利益	410	14.4%	420	**438**	14.7%	+27	+6.7%	+18	+4.4%
親会社株式に帰属する当期純利益	285	10.0%	290	**286**	9.6%	+1	+0.6%	▲3	▲1.1%
1株当たり当期純利益	120.7円	–	121.8円	**120.9円**	–	+0.2円	+0.2%	▲0.8円	▲0.7%

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

■ 初診件数は増加を続け、7,000件を突破

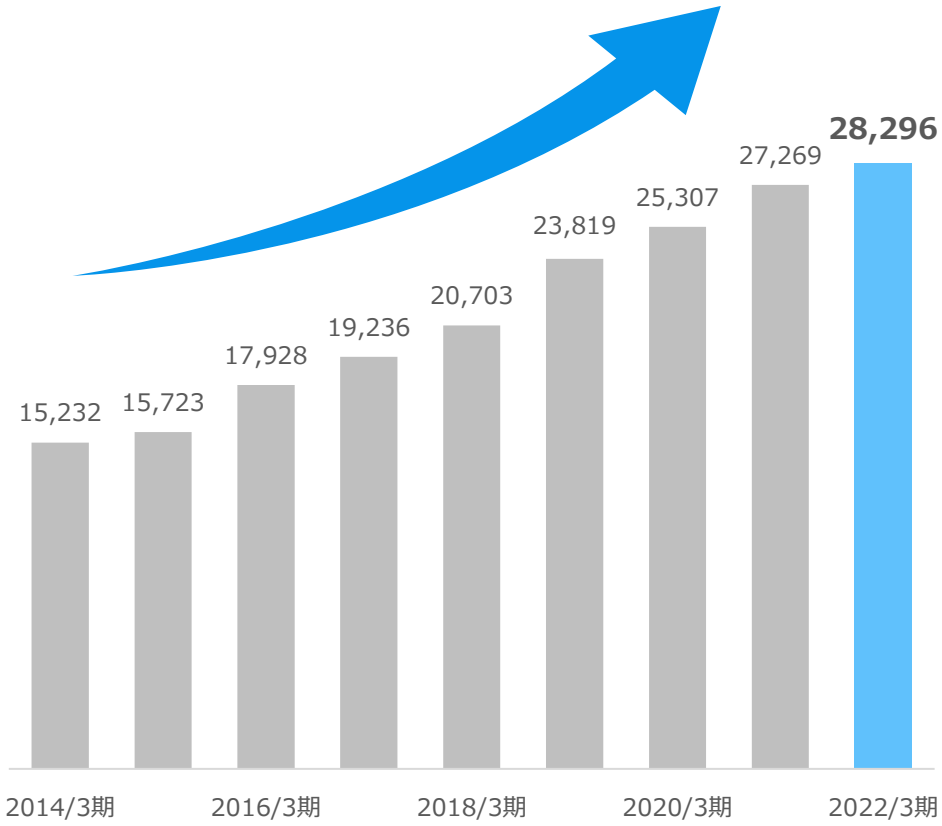


Copyright© JARMeC All Right Reserved.

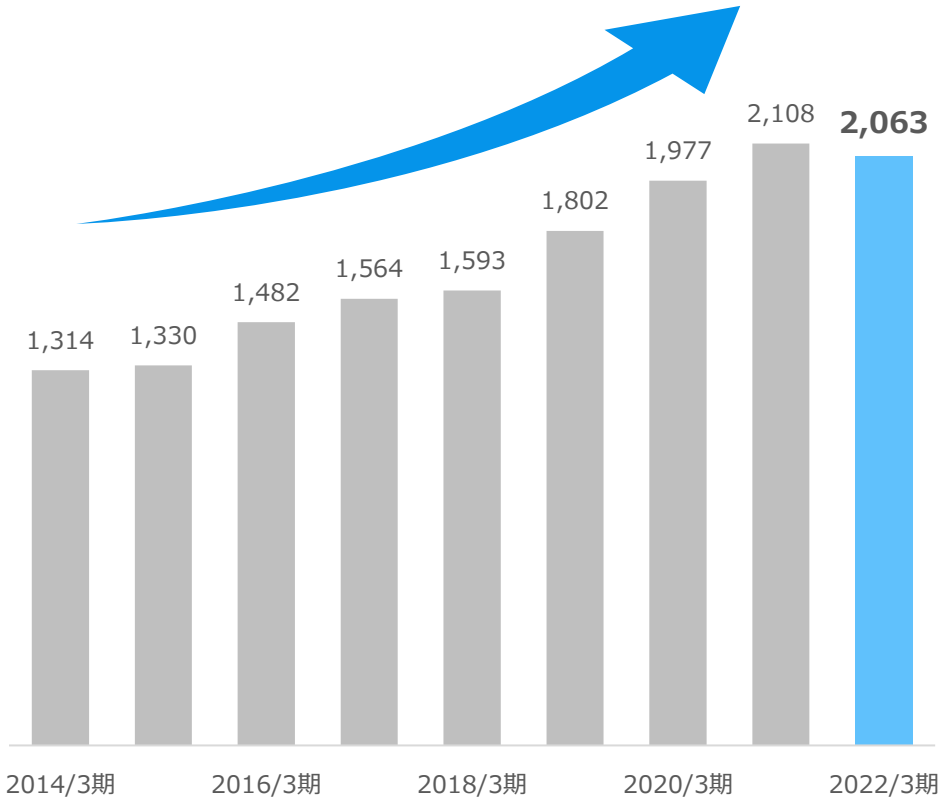
事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は、初診件数、再診件数が共に増加し、28,296件で過去最多
- 手術件数は、前期比▲2.1%の2,063件で微減

総診療件数の推移



手術件数の推移

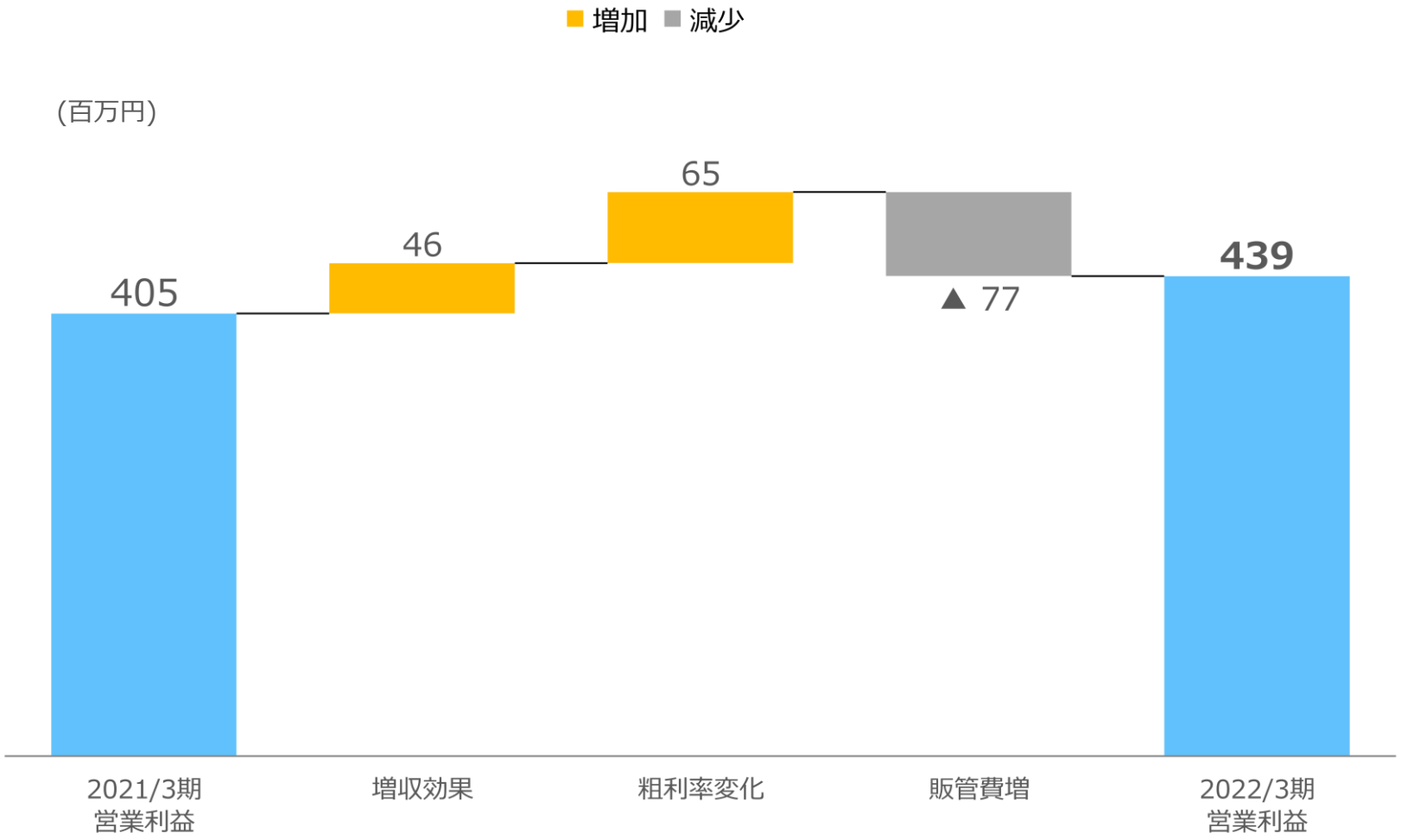


注：総診療件数は初診と再診の合計数

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

営業利益増減要因

■ 増収により粗利率が改善し、販管費の増加分を吸収。前期比33百万円の営業増益

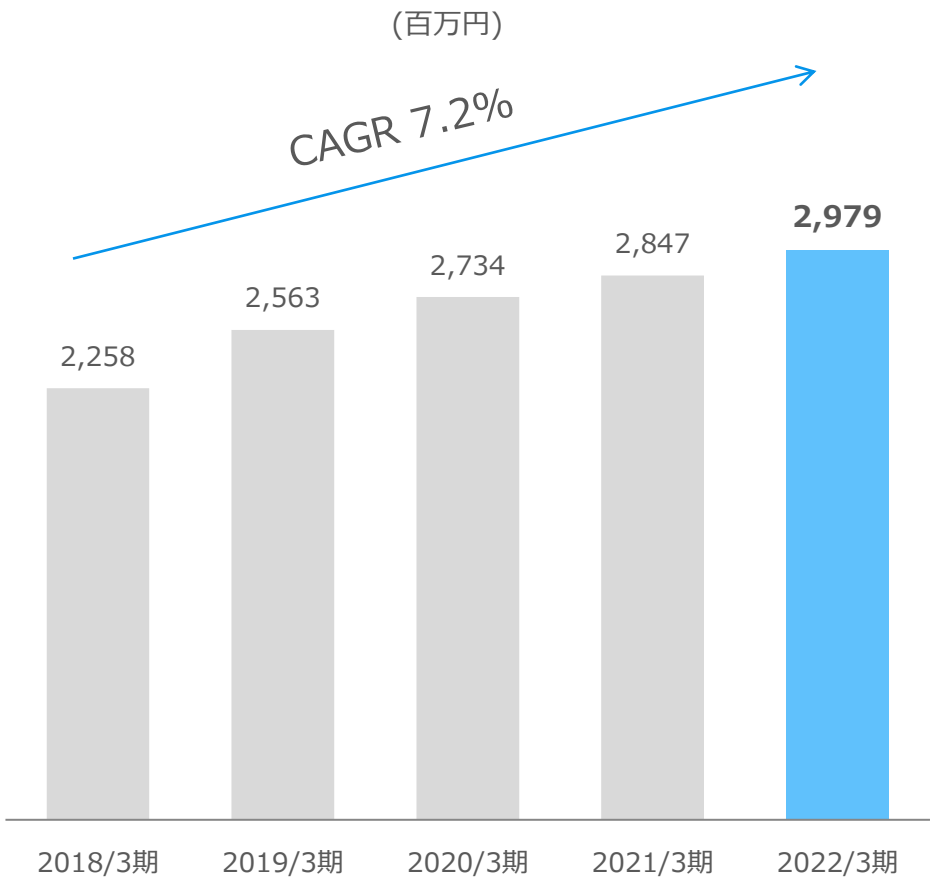


Copyright© JARMeC All Right Reserved.

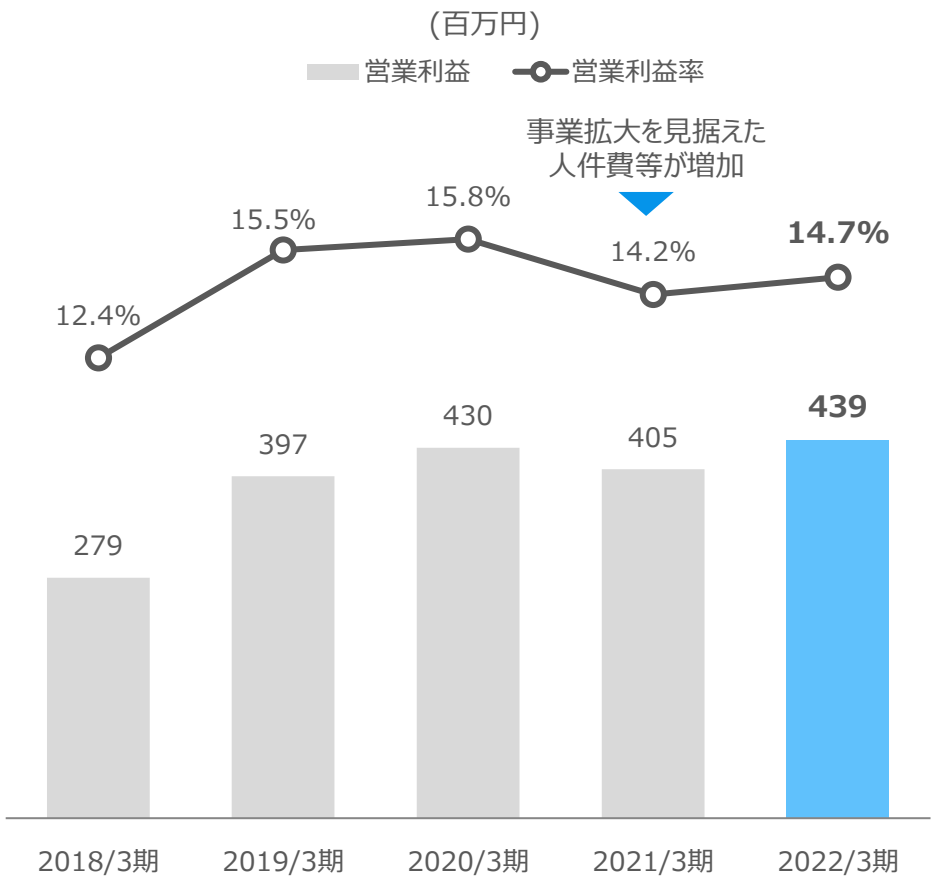
業績推移

- 売上高は、前期比4.6%増収の29億79百万円となり、過去最高売上を更新
- 営業利益は、同8.3%増益の4億39百万円となり、過去最高益を更新。営業利益率は改善

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



Copyright© JARMeC All Right Reserved.

バランスシートの状況

- テルコム㈱買収や大阪病院建設、㈱キャミック移転に伴い有形及び無形固定資産がそれぞれ増加し、固定資産は10億40百万円増加。主にそれらを使途とした長期借入金増加により、負債合計は9億49百万円増加
- 自己資本比率は40.0%から36.0%へ低下するも一定水準を維持

（百万円）	2021/3期	2022/3期	前期末比
流動資産	1,457	**1,539**	+81
現預金	1,214	**1,068**	▲146
売掛金	148	**228**	+80
商品	59	**119**	+59
固定資産	4,386	**5,427**	+1,040
有形固定資産	4,198	**4,707**	+508
無形固定資産	13	**516**	+502
総資産	5,844	**6,966**	+1,122
負債	3,507	**4,456**	+949
有利子負債	3,074	**3,921**	+847
純資産（株主資本）	2,336	**2,509**	+173
自己株式	▲89	**▲186**	▲96
負債純資産合計	5,844	**6,966**	+1,122

有利子負債依存度は
52.6%から56.3%へ上昇

自己資本比率は
40.0%から36.0%へ低下

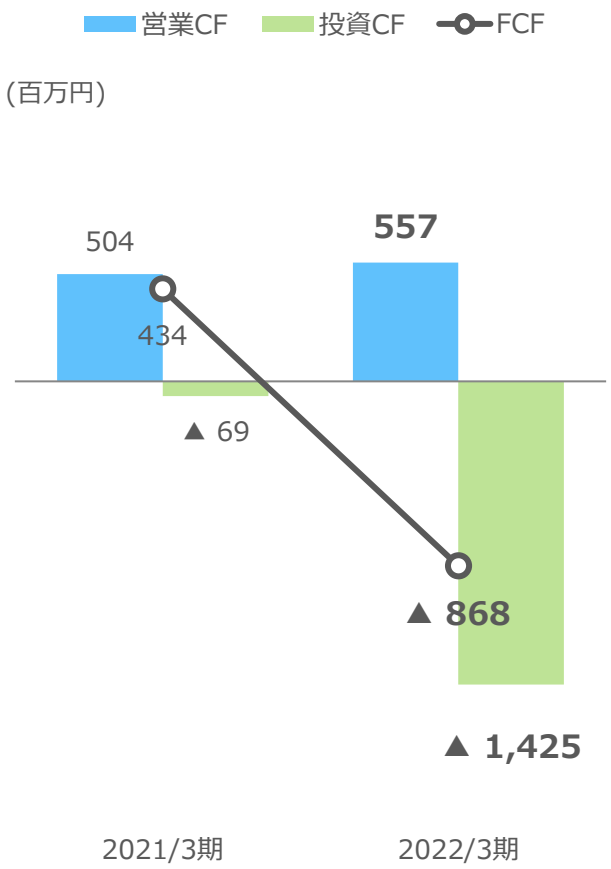
Copyright© JARMeC All Right Reserved.

キャッシュフローの状況

- 主に当期純利益や減価償却費の増加により、営業CFは53百万円増加しプラスを維持
- テルコム㈱買収や大阪病院建設、㈱キャミック移転等の積極投資により、投資CFは▲14億25百万円
- 長期借入による収入等により、財務CFは大幅に増加し7億22百万円

(百万円)	2021/3期	2022/3期	前期比
営業CF	504	**557**	+53
税金等調整前当期純利益	411	**423**	+11
減価償却費	220	**241**	+20
移転関連費用	–	**25**	+25
棚卸資産の増減	▲9	**15**	+24
投資CF	▲69	**▲1,425**	▲1,356
有形固定資産取得	▲65	**▲601**	▲536
連結範囲変更を伴う子会社株式の取得	–	**▲784**	▲784
FCF*	434	**▲868**	▲1,302
財務CF	▲469	**722**	+1,191
有利子負債の増減	▲330	**845**	+1,175
現金同等物の期末残高	1,114	**968**	▲146

*FCF（フリー・キャッシュフロー）=営業CF+投資CF



Copyright© JARMeC All Right Reserved.

2023年3月期の見通し

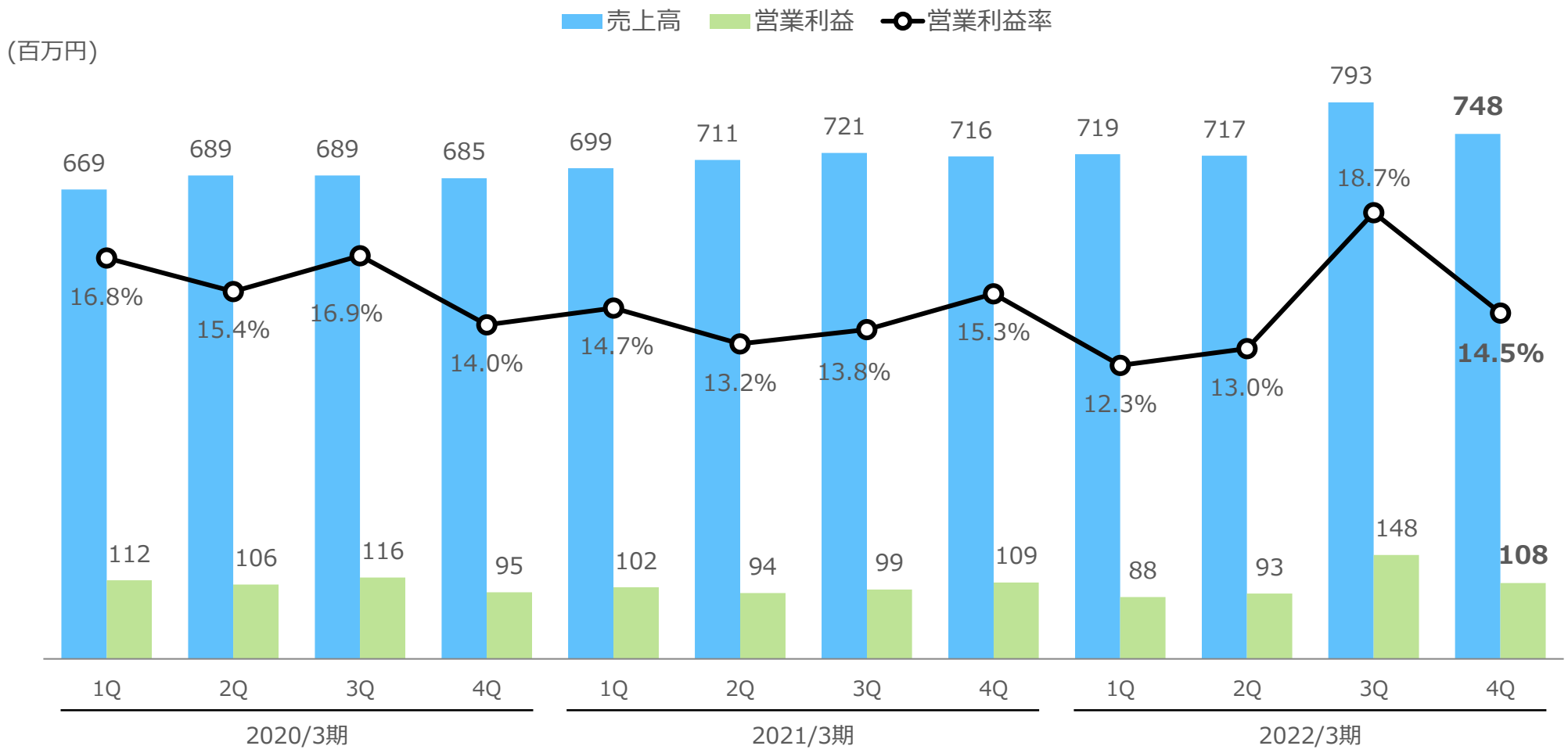
- ㈱テルコムの買収及びグループ各社との連携を一段と強化し、経営効率を改善。2023年3月期見通しについては、大幅な増収増益を計画
- 一次診療施設とのコミュニケーション強化になお一層力を入れ、初診件数増加を図る

(百万円)	2022/3期		2023/3期			
	実績	構成比	計画	構成比	前期比	
売上高	2,979	100.0%	**3,860**	100.0%	+880	+29.6%
営業利益	439	14.7%	**535**	13.9%	+95	+21.8%
経常利益	438	14.7%	**540**	14.0%	+101	+23.1%
親会社株主帰属当期純利益	286	9.6%	**365**	9.5%	+78	+27.2%

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

四半期決算　業績推移

- 四半期売上高についてはやや横ばいでの推移であったが、2022年3月期第3四半期より増加基調へ転換
- 営業利益に関しても同様に同第3四半期より増加基調へ転換。2022年3月期下期の営業利益率は16.7%となり、半期における過去最高水準を更新



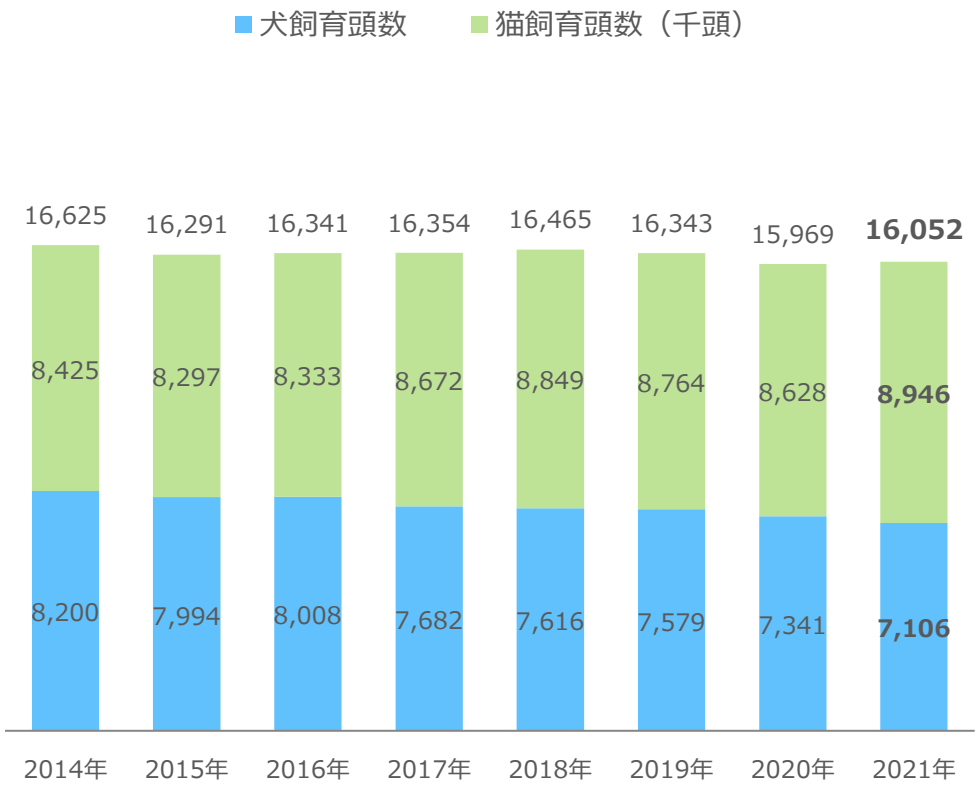
Copyright© JARMeC All Right Reserved.

４．市場環境

動物医療業界を取り巻く環境

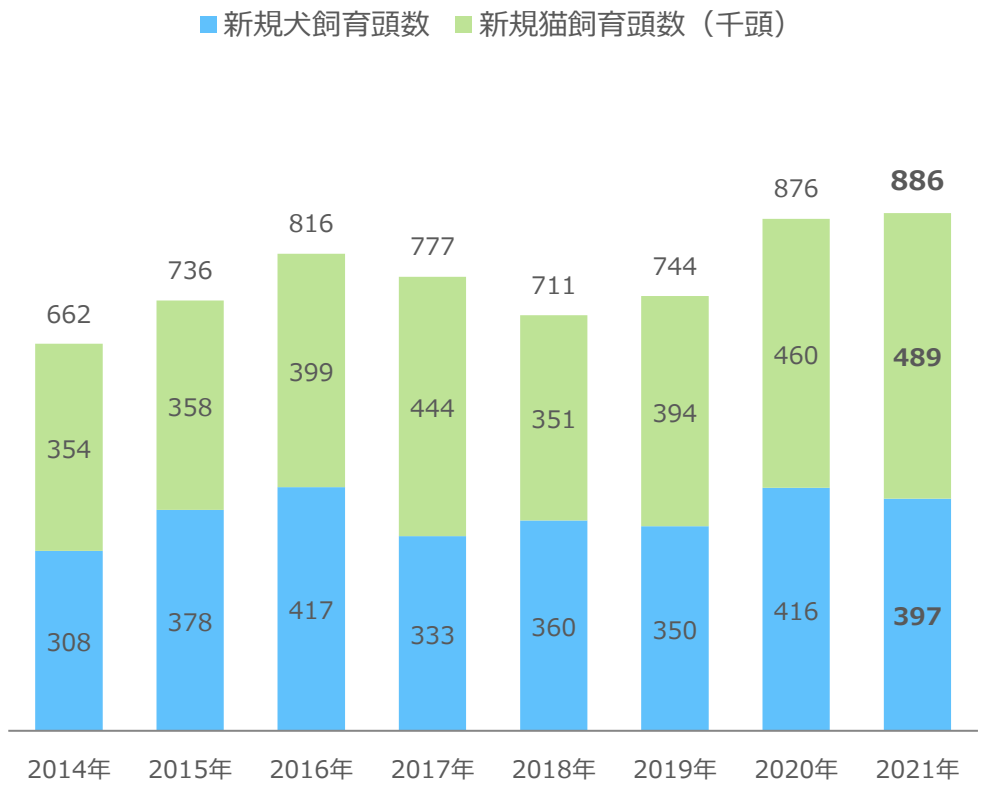
- 犬の飼育頭数は依然として減少傾向にあるが、世話のしやすさやマンションでも飼育可能等の理由から高齢層及び若年層を中心に猫の飼育頭数は緩やかに増加。犬猫飼育頭数全体では前年比で微増
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で大幅に増加。新型コロナを契機に猫飼育需要が高まったこともあり、過去8年間で最多の886千頭

犬猫飼育頭数



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数



出所：ペットフード協会「令和3年 全国犬猫飼育実態調査」

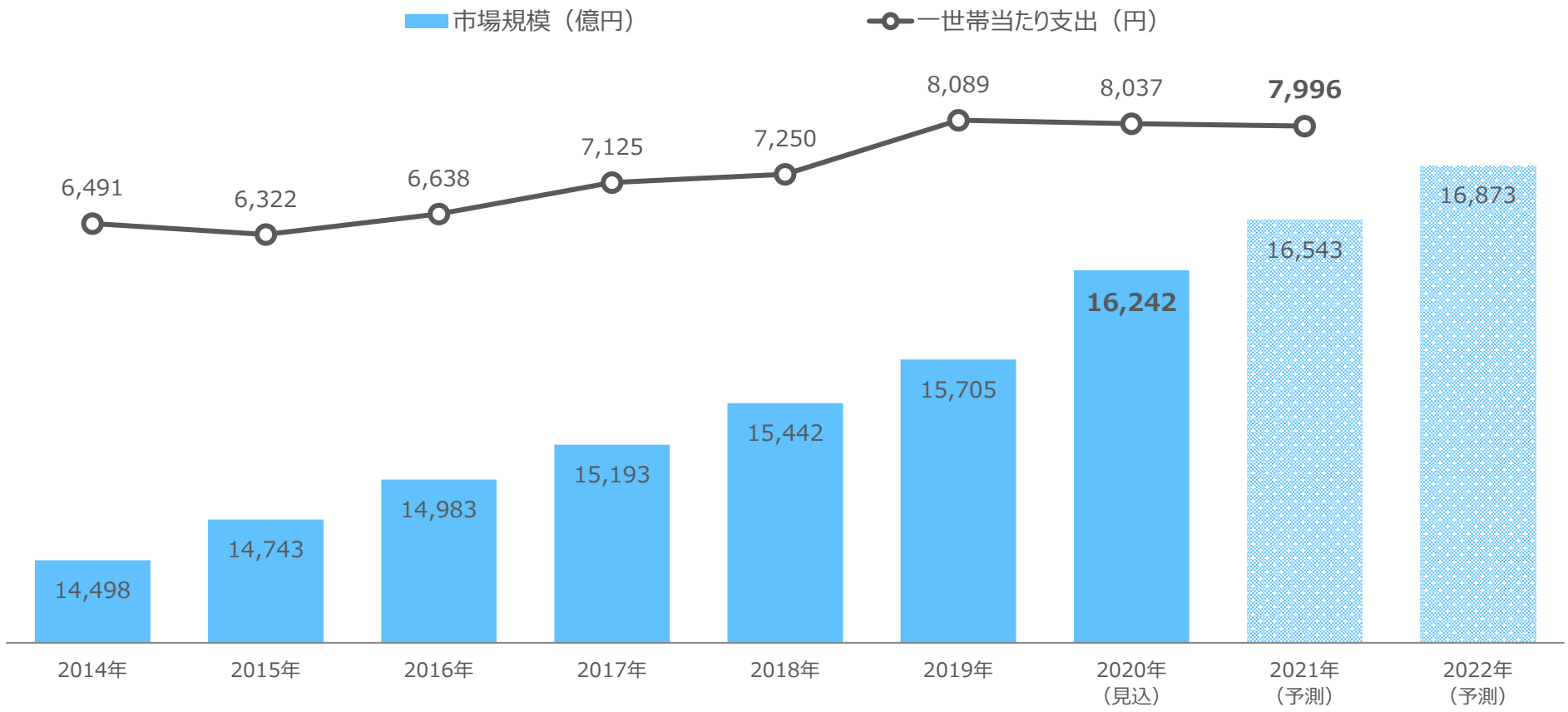
Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット関連総市場規模

- ペットの家族化により、犬猫の高齢化に伴い疾病が多様化する中で飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加し、世帯当たりの動物病院支出額は増加傾向
- ペット関連総市場規模は年々拡大

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



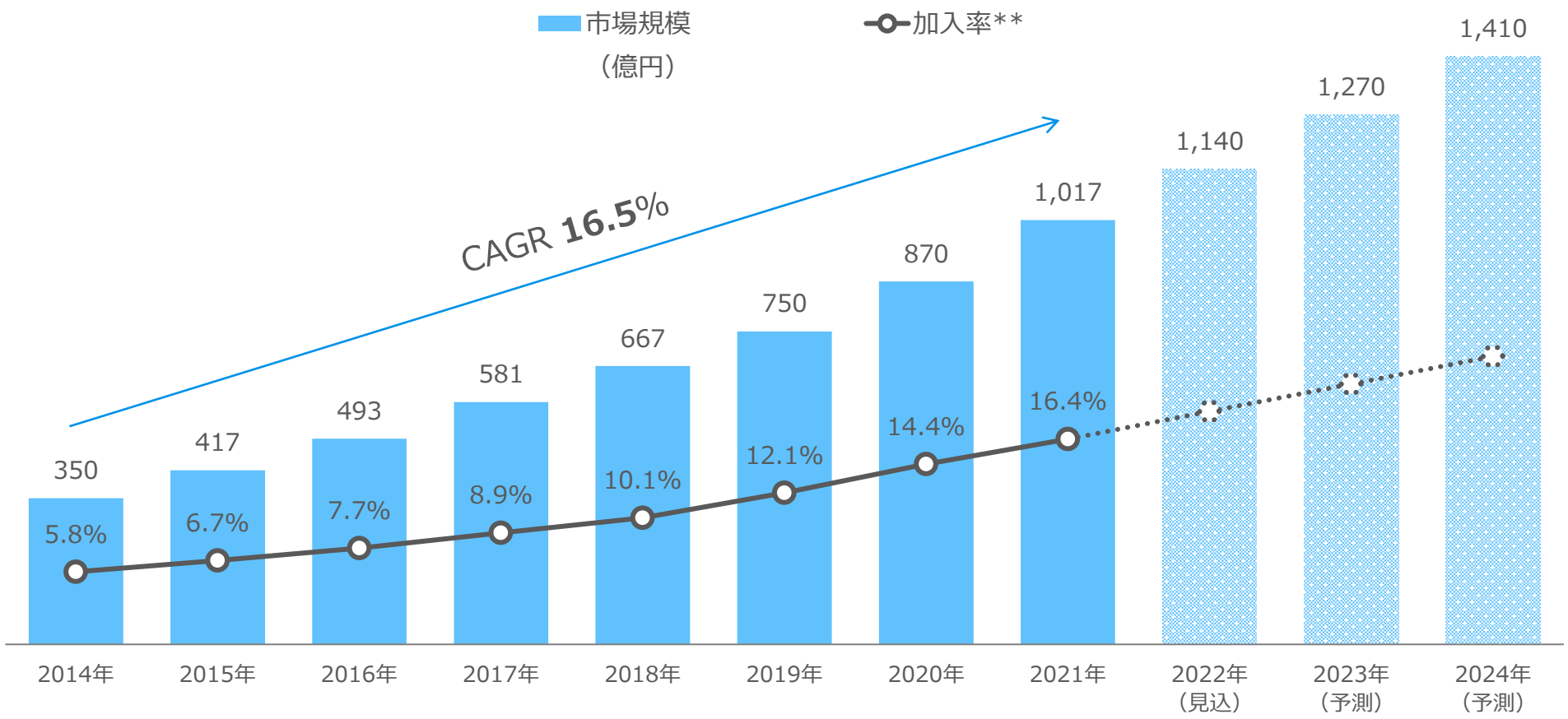
出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット保険の成長性

- ペット保険の市場規模は年平均16.5%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい

ペット保険市場規模と加入率



*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2022ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」
（注）一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

当社の特徴と競合との比較

病院の区分	JARMeC	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	**年中無休**	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	**11**	10～19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器
獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

柔軟な受入対応
年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

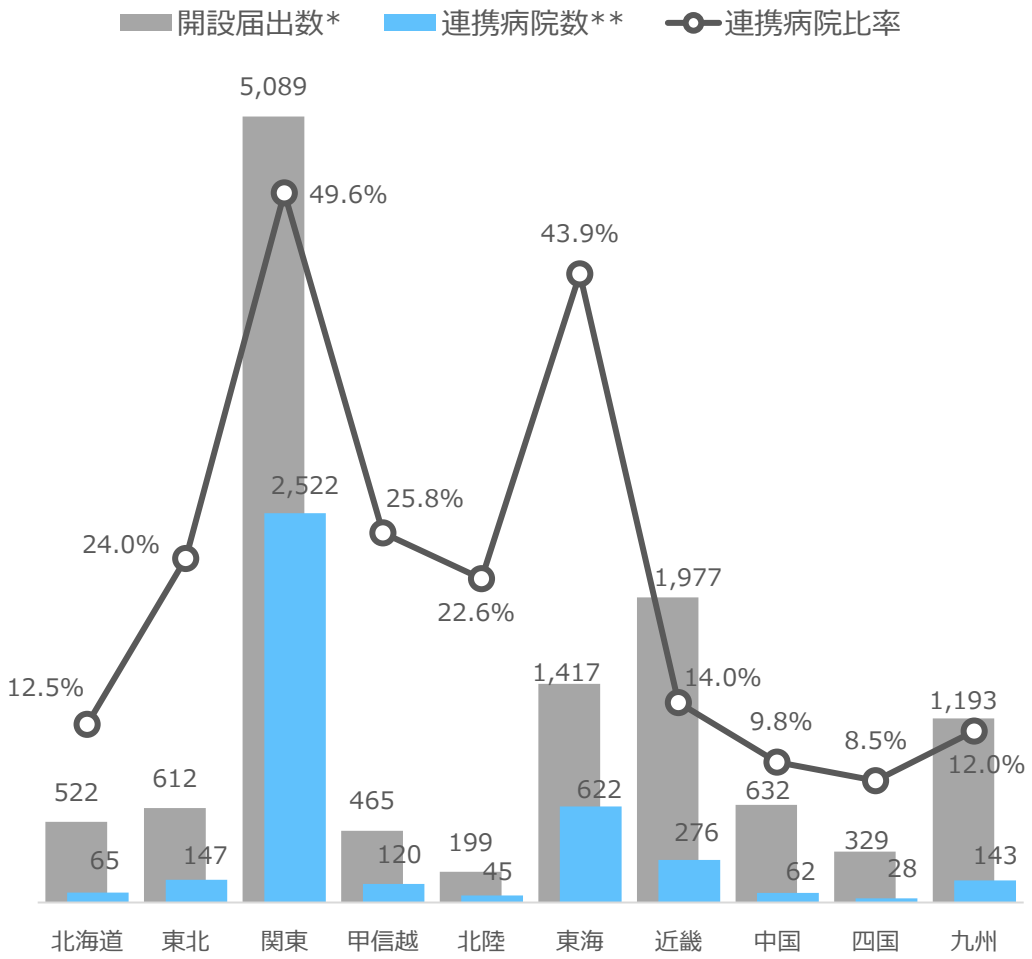
チームによる診療体制
専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

5．成長戦略

拠点の展開

- 当社4番目の拠点として、2022年1月に大阪病院の建設に着工。2023年2月の完成を見込む
- 大阪病院開業により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進中

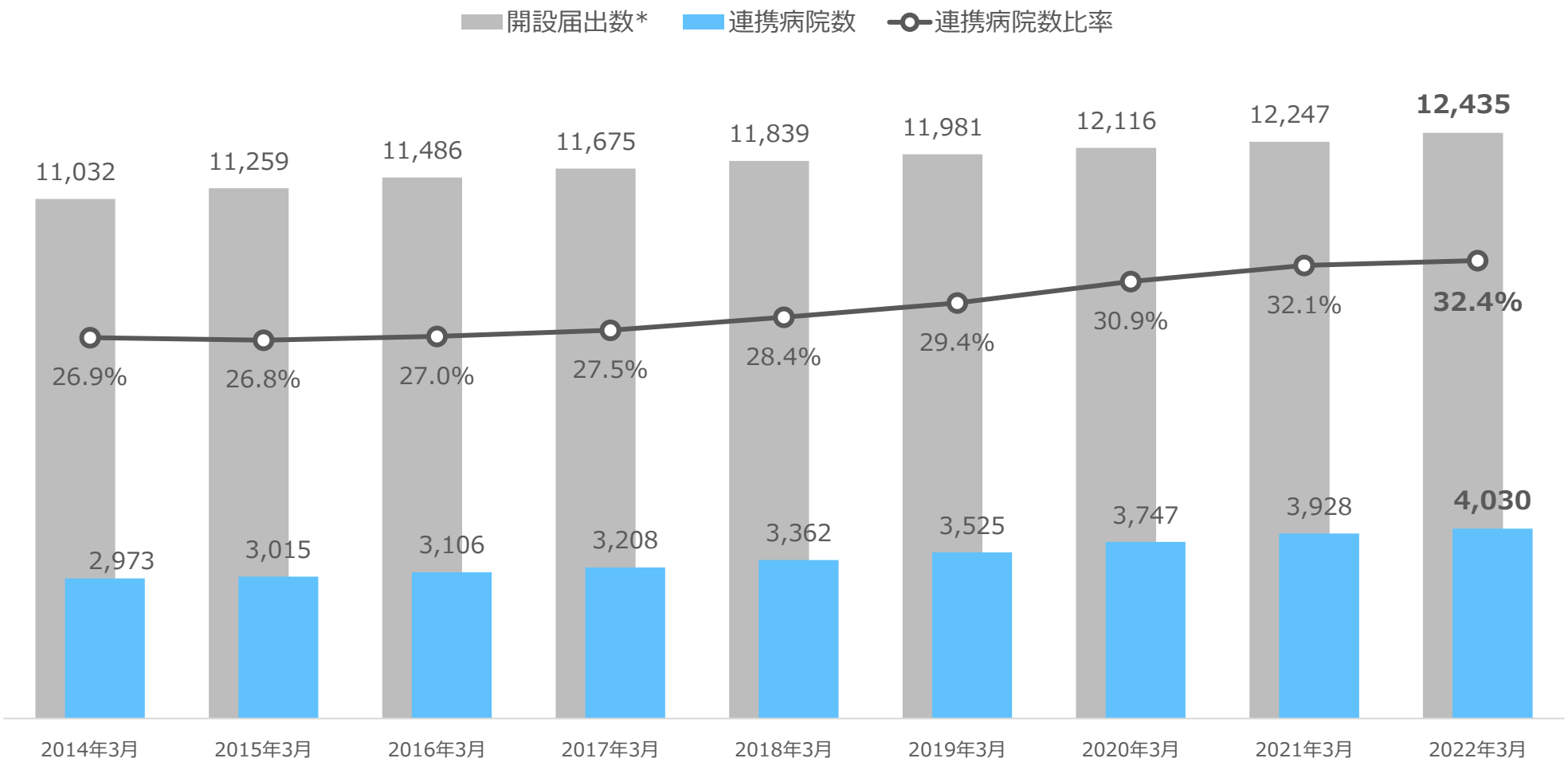


*開設届出数は農林水産省（令和3年12月末時点の小動物診療施設の件数）
**連携病院数は2021年9月末時点の件数

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2022年3月末時点で全国4,030施設と連携し、連携病院数比率は32.4%まで上昇



*開設届出数は農林水産省（2021年12月末時点の小動物診療施設の件数）

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

人材確保

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続
- 2022年3月テルコム株式会社の子会社化に伴い、グループ従業員数は増加

人材確保

優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施

従業員の育成

- 全科ローテーション研修プログラムの実施
（農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設）
- 症例検討会、各種講習会、臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と手術数/専門診療科による高度医療の習得

役割の拡大

動物看護師の国家資格化
（愛玩動物看護師）

動物看護師の国家資格化による役割の拡大、獣医師の負担軽減

業務の効率化・生産性の向上

出所：農林水産省/環境省
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！
（パンフレット）

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施される予定

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）

獣医療

診療（獣医師のみ実施可能）
◆ 手術、X線検査、診察等に基づく診断など

診療の補助
（獣医師および愛玩動物看護師のみ実施可能）
◆ （獣医師の指示の下に行う）採血、投薬（経口など）、マイクロチップ挿入、カテーテルによる採尿など

愛玩動物看護師の業務

動物の愛護及び適正な飼養に関する業務
◆動物の日常の手入れに関する指導・助言
◆人と動物の共生に必要な基本的なしつけ　など

国家資格化

業務拡大

今後、愛玩動物看護師の役割として拡大される業務

その他の看護
◆入院動物の世話、診断を伴わない検査など

出所：農林水産省/環境省「愛玩動物看護師の業務範囲（イメージ）」を元に当社作成

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

事業の多角化・協業加速

事業領域の拡大

- 患者動物・飼い主に寄り添い、
  一次診療施設を多方面からサポート
- 診療外領域においても利便性を高めるシステムや
  サービスの開発・販売を検討
- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進
  （具体的な案件については未定）

医療機器

保険

ペットフード

医薬品

活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み

- 動物の日常の活動量を測定し、
  動物の「元気」を「可視化」

一次診療施設（動物病院）経由での
拡販を目指し、普及促進

複数の企業との協業を加速

動物医療業界における総合的企業へ

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

テルコム㈱の子会社化による事業領域の拡大

- 2022年3月18日にテルコム㈱*全株式を取得し、子会社化
- 同社が構築してきた「全国規模の飼い主、一次診療施設との接点」と、当社グループの「二次診療サービス」が融合し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスが提供できることを企図

*テルコム株式会社：動物の在宅医療に必要な「酸素ハウス」（酸素濃縮器、ケージ、酸素濃度計等のセット）の貸与・販売を全国規模で行う企業

酸素ハウス terucom

酸素ハウスを必要とするすべての方に、もっと安心を届けられるように。

全国規模の飼い主、一次病院との接点

×

JARMeC Japan Animal Referral Medical Center 日本動物高度医療センター

動物にも人間と同じような高度な医療を受けさせたい

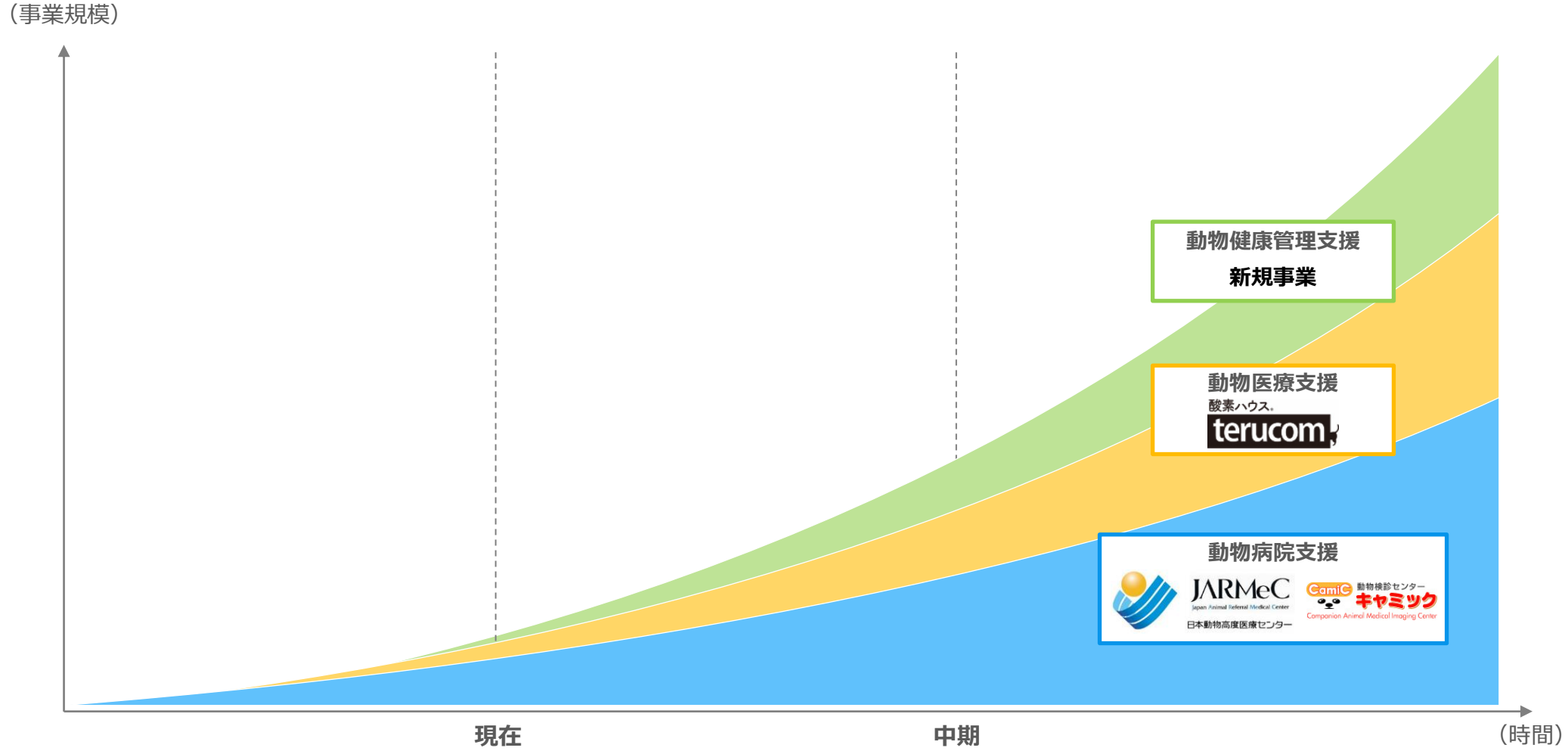
二次診療サービス

両社の経営姿勢、経営方針が合致し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスを提供

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す



Copyright© JARMeC All Right Reserved.

６．リスク情報

認識するリスクと対応策（１）

認識するリスク	リスク対応策、顕在化する可能性等
事業環境の変化（飼育動物の減少） 飼育動物の頭数は、人口動態、景気動向等の影響を受けると考えられ、一部の調査では近年は減少傾向にあります。飼育頭数が急激に減少した場合には当社グループの業績に影響を与える可能性があります。	**顕在化する可能性：中　影響度：高　時期：中長期** 動物の平均寿命は延びてきており、高齢化による疾病が多様化していること、ペット保険の加入率が増加傾向にあることから、当社グループが手掛ける「動物の高度医療」に対するニーズは高まっていると認識しております。このようなニーズに応えるべく、拠点の拡大、人材の育成、業務範囲の拡大等を図ってまいります。
競合の激化 当社グループの属する動物の二次診療施設の増加により競争が激化し、診療数の減少が進んだ場合等には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。	**顕在化する可能性：低　影響度：中　時期：中長期** 動物の二次診療施設は、人的資源および多額の資金を必要とすることから比較的参入障壁は高いと思われます。当社グループは多くの専門診療科を有する総合診療施設を志向しており、複数の専門診療科の連携によって患者動物に最適な診療サービスを提供することで、他の二次診療施設との差別化を図ってまいります。
診療サービスの過誤 当社グループは、提供する動物医療サービスに過誤が生じ、発生した損失に対する責任を追及されるリスクがあります。さらにサービスに過誤が生じたことにより社会的評価が低下し、当社グループのサービスに対するニーズが低下するリスクがあります。このような場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。	**顕在化する可能性：低　影響度：中　時期：中長期** 当社グループは、提供する動物医療サービスの品質管理に細心の注意を払っております。今後もサービスに携わる人材の教育に努めてまいります。

（注）認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

認識するリスクと対応策（２）

認識するリスク	リスク対応策、顕在化する可能性等
人材の確保と育成 当社グループにおいて専門性の高い獣医師をはじめとする優秀な人材の確保、育成及び定着は、今後の業容拡大のための重要課題であります。必要とする人材を採用できない場合、また採用、育成した人材が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは社外に流出した場合には、当社グループの事業展開及び業績に影響を与える可能性があります。	**顕在化する可能性：中　影響度：中　時期：中長期** 当社グループは、給与・賞与支給水準の向上、福利厚生の充実などの待遇改善に努めてまいります。また、入社する職員に対する研修や、リーダー層となる中堅職員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の育成に努め、社内研修・カンファレンス、症例報告会、学会発表の指導等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図ってまいります。
新型コロナウイルス感染症の拡大 新型コロナウイルス感染症の拡大が一般的な予想以上に長期化する場合には、以下のリスクが想定され、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。 ①当社グループ役職員が感染するリスク 消毒などに必要な期間や、病院の運営に必要な人員が確保できなくなる場合等、病院の休業を余儀なくされるリスクがあります。 ②消費動向に関するリスク 感染拡大の長期化に伴い、経済活動が大きく低迷した場合、個人の消費マインドの冷え込み等により、患者数が低下するリスクがあります。	**顕在化する可能性：低　影響度：中　時期：中長期** 当社グループは、社長を対策本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、全社的な対応方針の決定や具体的な施策の実行により、職員とその家族、来院する飼い主の安全確保、感染拡大防止に最優先に取り組んでおります。その結果、病院の運営に支障が生じたことはなく、感染拡大による業績への影響は、比較的軽微なものでありました。引き続き感染拡大防止に取り組んでまいります。

（注）認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

本資料の取り扱いについて

・本資料は、当社の事業内容及び事業戦略に関する情報の提供を目的とするものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘する目的としたものではございません。

・本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

・従いまして、実際の業績が本資料に掲載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを予めご了承ください。なお、業績予想等に変更を与える事象が発生した際には、速やかに適時開示を行っていく方針です。

・「事業計画及び成長可能性に関する事項」の更新は、今後、本決算発表後に開示を行う予定です。次回の更新は、2023年６月を予定しております。

＜お問い合わせ先＞
株式会社日本動物高度医療センター
管理部 企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail：ir@jarmec.jp

Copyright© JARMeC All Right Reserved.